

【現代社会文化研究科（博士後期課程）人間形成研究専攻】

ディプロマ・ポリシー

人材育成目標（修了生が身に付けるべき資質・能力）

価値多様化する現代社会において、家庭、学校、又は社会等における人間形成の場面では、生活、文化若しくは教育のそれぞれの環境の違いにより様々に多くの諸問題が発生しています。それらは、国境を越えて浸透している問題であり、その解決が急務であると思われます。そこで、当プログラムでは、そのような社会に見られる諸問題を、家庭、学校、又は社会等に関する高度な専門知識と実践能力を有する者として、新潟などの地域社会、そして特に環東アジアを拠点とする国際社会で、課題を自ら発見しそれらを解決する、さらに独自の見解や立場を積極的に発信していく能力を有する高度な専門的職業人、あるいは当該分野の研究者として学問の道を進む人材を育成します。

本学に当プログラムの修業年限以上在学し、所定の授業科目及び12単位以上を修得した者で、人材育成目標に係る下記能力を有すると認められた者に、博士（学術）、博士（文学）、又は博士（教育学）の学位を授与します。

プログラムの到達目標（目標としての学修成果）

知識・理解

- 人間形成にかかわる諸事項についてのより高度な専門的知識を有し、それを深く理解している。

当該分野固有の能力

- 人間形成にかかわる諸事項についてのより高度な専門的知識及び自ら設定した課題を深く探究し解決策を見出すことができる。

汎用的能力

- より専門的見地から現代社会で共生していくための実践的課題を発見することができる。
- 実践的課題を他者と共有して探究し、率先して解決に導いていくことができる。
- 多元的な考え方（視点）を尊重しながら独自の見解や立場を構築し実践することができる。
- 専門分野・異分野を問わず自身の研究内容についていかなる相手に対しても適切かつ十分に伝えることができる。

態度・姿勢

- 人間形成研究専攻における自身の「専門性」を確立し、かつ他の専門分野や実務との邂逅を通してそれをよりブラッシュアップしようとする姿勢を備えている。
- 社会をグローバルでダイバーシティのあるものとしてとらえ、他者を尊重しながら独自の見解や立場を構築し、発信しようとする姿勢を備えている。
- 新潟などの地域社会や環東アジアを拠点とする国際社会において常に現代社会で共生していくための課題を探究し続け、大学院で培った能力を用いて、国内外を問わず社会をリードし牽引していこうとする姿勢を備えている。

カリキュラム・ポリシー

到達目標に達するための教育課程

カリキュラム編成

当プログラムでは、生活環境・文化・教育の学問分野に関して大学院前期課程で培われた素養を土台にして、さらなる能力を地域社会、国際社会で発揮できる者を育成するという目的に対応したカリキュラムが編成されています。

現代社会における人間形成にかかわる諸事項についてのより高度な専門的知識及び自ら設定した課題を深く探究しその解決策を見出す能力を養成し、段階的に博士論文作成の準備をする科目として、「特定研究Ⅰ」、「特定研究Ⅱ」、及び「特定研究Ⅲ」（各2単位、計6単位）を履修します。

博士論文のブラッシュアップを図り、専門分野・異分野を問わず自身の研究内容についていかなる相手に対しても適切かつ十分に伝える優れたプレゼンテーション能力を身に付けるための科目として、「人間形成研究総合演習」（2単位）を履修します。

また、博士論文作成に必要とされる高度な専門知識および考え方を修得するために、「選択科目」（各2単位、計4単位以上）を履修します。

学修内容・方法

第1期（第1 Semester～第2 Semester）の必修科目「特定研究Ⅰ」では、主指導教員が組織する共同研究プロジェクトに参加し、そこでの研究成果をふまえて2万字程度の参考論文を執筆・公表します。さらに、「選択科目」を履修することで、論文執筆に必要な専門知識及び考え方を修得します。

第2期（第3 Semester～第4 Semester）の必修科目「特定研究Ⅱ」においても、第1期同様に主指導教員が組織する共同研究プロジェクトに参加し、そこでの研究成果をふまえて2万字程度の参考論文を執筆し公表します。さらに、「人間形成研究総合演習」においては、各自の研究内容を発表し、所属する専攻の教員や学生との質疑応答を行います。

第3期（第5 Semester～第6 Semester）の必修科目「特定研究Ⅲ」でも、以上と同様に主指導教員が組織する共同研究プロジェクトに参加し、そこでの研究成果をふまえて2万字程度の参考論文を執筆・公表します。また、「学位論文執筆資格審査（口述試験・筆記試験）」を経て、博士論文の草稿を執筆します。さらに博士論文草稿に対する履修指導委員会の指導を経たうえで、学位論文を提出します。

学修成果の評価方法

「特定研究Ⅰ」、「特定研究Ⅱ」、及び「特定研究Ⅲ」では、研究プロジェクトにおける研究成果を、主指導教員が評価します。

選択科目では、各科目において与えられた課題についてのレポート、又は試験により一定以上の成績を修めることで各科目担当者が評価します。

「人間形成研究総合演習」では、研究成果のみならず、専門分野以外の相手に対しても適切かつ十分に伝えるコミュニケーション能力を、他分野の教員を含む研究指導チームが評価します。